

中国大陸（以下、「中国」と略称）における大学でのソーシャルワーク教育の概略を紹介する。

1. 九十年の歩み

中国における大学におけるソーシャルワーク教育は、1920年代に教会系統の大学で始まった。この導入、挫折、新生、飛躍的發展を経験した九十年は、1920年代始めから50年代始めまでと、1980年代始めから今日までの、二つの時期に分けられる。

1922年に、燕京大学で社会学系が設置され、応用社会学の教育カリキュラムの重点に「社会服務」が置かれた。この「社会服務」は、ソーシャルワークを意味するものである。さらに1940年代に、金陵大学は社会学系の中に「社会工作」（ソーシャルワーク）専攻を設置した。1949年には、中国ではソーシャルワークについての教育を行う大学は20ヶ所を超えた。

ところが、中華人民共和国成立後、ソビエトの影響によって、社会学及びソーシャルワークについての大学教育を維持することは困難になった。1950年6月に開かれた全国高等教育会議において、ソビエトの代表は基調講演において、「われわれの大学では、二種類の思想の併存は許せず、資産階級の社会学と歴史唯物論とは両立できない」と明言した（『光明日報』1950年6月8日）。

1952年、中国で社会学系はただ二つしか残らず、その一年後、社会学系はすべて取り消された。それにつれて、ソーシャルワークの大学教育も中国から「撤退」したと言ってもよい。

1970年代後半に入って、中国で改革開放が進展するにつれて、社会学及びソーシャルワークについての大学教育の新生が見られた。1979年、社会学についての教育が再び大学に戻った。六年後の1985年には、ソーシャルワークについての大学教育を復興させる必要性も提起された。1987年10月に完成した国家教育委員会による『普通高等学校社会科学の学部教育リスト』には、「社会工作と管理」が現段階で試行する学科として記載された。

1989年、北京大学は社会工作専攻の学部生と修士課程学生を募集することになった。1993年には、中国青年政治学院が「社会工作と管理系」を設置した。1999年、社会工作という専攻を有する大学は28ヶ所あったが、その後、急速に増加し、2008年には227ヶ所に達した。

2. 現状

以下、この教育の実態を位置づけ、教育科目、中国社会工作教育協会、社会工作専門職化という四点から、中国におけるソーシャルワークについての大学教育の現状を見てみる。

① 大学教育におけるソーシャルワークについての教育の位置づけ

教育部が公布した学部の学科リストで、「法学学科」に属する「社会学門類」に、「社会学」と「社会工作」が並列されている。ところが、教育部が公布した大学院の学科リストでは、「一級の学科」としての「社会学」は「法学門類」に属し、下に「社会学」と「人類学」、「人口学」、「民俗学」という四つの「二級の学科」が並べられている。すなわち、「社会工作」は独立の専攻とされていない。一部の大学は「社会学」または「社会保障学」の枠組の中で社会工作専攻の大学院生を募集している。だが、最近、「MSW」の導入が検討され、一部の大学で独立の専攻を試行することになった。

② ソーシャルワークについての学部教育カリキュラム

以下の11科目は、高等学校社会学学科教学指導委員会によって定めたソーシャルワークについての学部教育の主幹科目であります。

(1) 社会学概論 (Introduction to Sociology)

(2) 社会心理学 (Social Psychology)

- (3) 社会調査研究方法 (Social Survey & Research method)
- (4) 社会工作概論 (Introduction to Social Work)
- (5) 個案工作 (Social Case Work)
- (6) 小組工作 (Group Work)
- (7) 社区工作 (Community Work)
- (8) 社会行政 (Social Administration)
- (9) 社会政策概論 (Introduction to Social Policy)
- (10) 現代社会福利思想 (Modern & Contemporary Social Welfare Theory)
- (11) 社会保障概論 (Introduction to Social Security)

それぞれの大学の社会工作専攻は、以上のような科目を中心に、具体的な教育カリキュラムを制定している。学校間の差があるが、実践力の人材養成に弱いことが共通であると言える。

③中国社会工作教育協会の役割

中国社会工作教育協会は、1994年に成立した。各大学の社会工作専攻が、この協会の理事を構成し、主管部門は教育部である。十五年間、中国社会工作教育協会はいろいろの側面から大学でのソーシャルワーク教育を推進してきたが、主としての業務は、①大学でのソーシャルワーク教育を担う教員の育成、②ソーシャルワークについての学部教育カリキュラムでの主幹科目の論証、③主幹科目のテキストの編集などが挙げられる。要するに、中国社会工作教育協会は団体の力で、専門知識と実務経験に富む教員が大変不足している中国における大学でのソーシャルワーク教育を支えていると言える。

④ソーシャルワークの専門職化の影響

中国において、ソーシャルワークについての大学教育に比べて、社会工作者（ソーシャルワーカー）専門職資格認定制度の歴史はさらに浅い。2004年、労働と社会保障部は『社会工作者国家職業標準』を公布し、2006年に人事部と民政部は聯合して『社会工作者職業水準評価暫定規定』と『助理社会工作者、社会工作者職業水準試験実施方法』を公布し、初の全国社会工作者職業水準試験は2008年6月に行われた。

上海市においては、国家試験より早く社会工作者職業資格認定が行われていた。2003年に、市の人事局と民政局が合同で『上海市ソーシャルワーカー資格認定暫定法』を公布した。同年11月に、上海市において、中国で初めてのソーシャルワーカー資格認定試験が行われた。その結果、中国の初めての「公認社会工作者」が1426名誕生し、その内で、「社会工作者」は281名、「社会工作者助理」は1145名であった。

ソーシャルワーカーの専門職資格認定についての国家試験制度の制定が大学でのソーシャルワーク教育より遅かったために、教育者側も学生側も、ソーシャルワーカーの専門職資格を取ることとソーシャルワークについての大学教育との繋がりについて、余りも意識していなかった。ただ、このことが中国の大学でのソーシャルワーク教育が実践力のある人材養成に弱かった一因であろうと考えられる。

3. 展望

近年来、中国は民生（福祉）をますます重要視してきている。ソーシャルワークは今までより重要視されることが予想される。一方、1998年に北京大学で「社会工作専攻」が創設されて20年間を経たが、経験や研究の成果の蓄積もあり、加えて外国との交流も進んでおり、他国に学びながら、中国の民情・国情に適するソーシャルワークについての大学教育を探り、またそれを担う人材を育成することが今後の課題になると考えている。